

子どもの本だな 36

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

### わにがまちにやってきた

チュコフスキー 作 内田 莉莎子 訳  
瀬川 康男 絵 (岩波書店)

ずっとむかし、ロシアの町にワニがひょっこりやってきました。名前はワーニ・ワニーイチ・ワニスキー。町の人たちはゾロゾロついて歩き、はやしたてたり、笑ったり、おまけに小犬がガブリと鼻面に噛み付きました。ワニーイチは小犬をパクリ。やってきたおまわりさんも飲み込みました。町の人たちがふるえる中、ふるえないのはただ一人、小さな男の子ワーニャ・ワシリョーク。ワーニャがおもちの刀を振り上げると、ワーニ・ワニーイチはおろおろと降参しました。

リズムたっぷりの詩のような文章は声に出すと心地よく、物語の劇的な展開を楽しむ余裕を与えます。やわらかなタッチの美しくユーモアたっぷりの絵で異国の風俗を味わいながら、ワーニャがもらったご褒美の山に大満足します。読んでもらえば3歳から楽しめます。(西村)

### ポッパーさんとペンギン・ファミリー

R&F・アトウォーター 著 上田 一生 訳  
ロバート・ローソン 絵 (福音館書店)

ポッパーさんは、南極や北極、探検家のことが大好きです。ある日、南極の探検家からペンギンが1羽届きました。ポッパーさんは、キャプテンクックという名前をつけ、冷蔵庫で飼い始めます。ところが、だんだん元気がなくなり、ついに高熱で瀕死の状態に。ポッパーさんが水族館に相談すると、孤独が原因の病気だろうと、メスのペンギンを送ってくれました。おかげで2羽は元気になり、10羽のヒナも生まれました。12羽のペンギンたちの食費を稼ぐため、ポッパーさんは、ペンギンたちに芸当を教え「ポッパーペンギン団」として各地を回り、大評判になりました。

ペンギンたちが起こす騒動をユーモラスに描きながら、ポッパーさんのペンギンへの深い愛情も感じられます。ペンギンのしぐさや体の表情まで生き生きと描いた挿絵も、ストーリーを盛り上げます。8歳くらいから。(池田)

10月	11月	10・11月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
6日	10日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
13日	17日	岩見構下 公民館 10:30~10:50	岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
20日	24日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子 ニュータウン 公民館 16:00~16:30

### お知らせ

毎週土曜日に  
「おはなしの時間」  
を開いています。  
4歳~2年生 11:00~  
3年生~中3 11:30~  
10月のおはなしは、  
「馬方やまんば」「マーシャと  
くま」「かにかにこそこそ」  
などを予定しています。  
詳しくはプログラムをご覧  
ください。

『 外来種は本当に悪者か？ 新しい野生 』 フレッド・ピアス 著

草思社 320頁 2016年7月刊 1,800円 (請求記号) 468

生態系は、ひとつの不具合で全体のバランスが崩れる、だからよそからなにかを持ち込むのはよくない、と思っていた。本書を読むうち、必ずしも外来種が悪ではないと、見方が変わる。

アマゾン川流域から持ち出されたホテイアオイが、1990年代に東アフリカのヴィクトリア湖で大繁殖した。漁業は衰退し、寄生虫をもつカタツムリやマラリアを媒介する蚊が発生した。数々の対策も、ホテイアオイの勢いに追いつけなかったが、洪水で湖の水が入れかわると事態は好転した。黒海でも、バラスト水に紛れアメリカから運ばれたクラゲが在来生物の減少を招く。外来種が環境を悪くしたと捉えられるが、どちらも、背景に深刻な水質汚染があった。外来種が変化を起こすのではなく、人間により壊された環境がたまたま外来種に適した状態であったのだ。

かつては「栽培される草本性植物のなかで最も優れたもののひとつ」と人気のあった日本産のイタドリが、南ウエールズのある町ではその気配があると、家の売却もできないと報じられるほどになっている。町が産業廃棄物の集積地となったため、有毒金属に強いイタドリが勢いをもった。こまめに除草していれば問題はないが、メディアが騒ぎ、嫌われ者になった。一方で、都会ではイタドリの密集地が増えつつあるカワウソの格好の隠れ場になり、花はミツバチや昆虫を呼ぶ。

人間によって破壊された自然に入り込んだ外来種が、減少傾向にあった在来種のとりになる例も多数紹介される。人間はなじんだものに愛着を持ち、守ろうとするが、ダイナミックな変化が自然本来の姿。外来種が入ることで、自然は力を盛り返し、多様性も増すということを多くの事例で伝える。また、常に変化する自然をある一定の状態にとどめようとする環境保護のありかたに疑問を呈している。

(竹内)

10月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

お知らせ

- ・図書館の蔵書の中で、ぜひ他の人にお薦めしたい本を募集します。
- ・12月18日(日)にスウェーデンの風土と文学について、講演会を開催します。

カレンダーの×印は休館日です。開館は10時～18時。金曜日は20時まで開館しています。

地下水

図書館では、毎年夏になると、西側の窓にグリーンカーテンを設けている。ガラス越しに、朝顔の緑の葉っぱ、その間に散りばめられた赤紫や青の花、薄緑の風船がずらを見ていると、ひと時でも暑さを忘れられる。今年は暑さが特に厳しく昨年より葉っぱも花も小さいことが、9月に入り激しい雨が降ると朝顔が元気がなくなったように喜んでいた。ところが、大雨が降った数日後、一つのプランターの葉っぱがほとんど消え失せて、赤茶色の茎だけが、ネットにからみついている。びっくりして目を凝らすと、大人の指くらいの薄茶色の芋虫が数匹、すさまじい勢いで葉っぱをかじっている。葉っぱごとちぎって殺虫剤をかけ、やれやれと思いつつ根元を見ると、ここにももう一匹。火箸ではさんでひきはがそうとするのだが、敵の握力は相当強く茎にしがみついて離れてくれない。火箸ではさんだまま引つ張り続けていると、芋虫と一緒に朝顔も根っこから引き抜いてしまうことになった。それでも、満身創痍の朝顔は、日にち葉で元氣を取り戻し、厳しい残暑の西日から、書架の本を守ってくれた。10月になり、ネットをはずして種を取り、びんにしまっておいた。特別整理を終えて図書館も本格的な秋を迎える。

(片木)

